

大地の生い立ち・美濃加茂⑤

化石が語る太古の美濃加茂

今年の春、木曾川の河床の地層から、大型ほ乳動物の足跡化石（三本指で奇蹄類）が発見されました。湖のほとりを歩くほ乳動物の姿をよみがえらせてくれました（みのかも広報七月一日号参照）。

足跡化石が見つかった地層は中村累層といい、多くの化石を産出すること（中村動物群と呼ばれています）でよく知られています。



大型ほ乳動物の足跡化石

陸上の動物化石として、ゴンフォテリウム、ヒラマキウマ、ニッポンバク、ミノシカ、リス、食肉類、昆虫類などが多くみつかっています。水域の動物化石としては、六種類の淡水魚類、淡水カメ、スッポン、ビーバーなどがみつかっています。

植物化石は、種類、量ともに極めて豊富で、ほとんどが冷温帯の落葉広葉樹に属するものです。地層中に木が立ったままで化石になった「化石林」もいくつかみられます。

これらや亜炭からは湖の周辺に発達した豊かな森林が想像できます。また、水辺の植物化石もみつかっています。

（博物館建設委員・鹿野勘次）

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

（平成五年十月分）

○古書 五点

（福井鋭巨さん／太田町）

○商店の看板類、手動稲刈り

機など 一四点

（小川泰和さん／西町）

市社会教育課博物館建設係

（内線三六一）まで情報をお寄せください。